英語

icare tonometer ONE

ユーザーマニュアルおよびメンテナンスマニュアル

Icare® ONE (モデル:TA02)取扱説明書 v1.12 01/14 英語

CE 0044

この装置は以下に適合しています。
医療機器指令 93/42/EEC
カナダ医療機器規則

Copyright © 2012 Icare Oy
Made in

Icare Oy
Äyritie 22, FI-01510 Vantaa, Finland
電話: +358 9 8775 1150、FAX: +358 9 728 6670
www.icarefinland.com, info@icarefinland.com

目次

目次 2
安全上の注意 2
使用の適応 4
使用禁忌: 4
概要 4
製品構成 4
電源の投入 5
測定前の眼圧計の設定 6
測定モードの選択 6
測定位置の調整 6
プローブの装填 7
眼圧の測定 8
測定手順 9
患者への使用説明 9
エラー メッセージおよびインジケータ 10
Icare ONE 眼圧計を使用する上で医療従事者と患者で違う点 10
クリーニングと消毒 10
電池の交換 11
保守手順 12
予備部品 12
技術情報および性能データ 12
臨床成績データ 13
記号 14

安全上の注意

警告
測定時に瞬間的に眼に接触するプローブを除き、眼圧計が患者の眼に接触してはいけません。眼圧計を眼に接触させたり、眼に押し当てたりしないようにしてください (プローブの先端は眼から 4 ～ 8mm または 5/32 ～ 5/16 インチの距離にある必要があります) 。

警告
装置のプローブ先端は、内毒素に関して評価されていません。プローブ先端は単回使用品で、無菌状態でパッケージされています。

⚠ 警告
Icare ONE 眼圧計（TA02）は、医療従事者による監督および制御の下でのみ使用します。

⚠ 警告
医療従事者は患者に対して、医療従事者から指示を得ずに治療計画を変更または中断しないように通知する必要があります。

⚠ 警告
医師との相談なしに、薬剤または用量を変更しないでください。

⚠ 警告
乱視、不正乱視、円錐角膜の角膜乱視が 3.00 D を超える患者における、測定結果の精度および再現性は不明です。

⚠ 警告
聴覚障害の患者は、正しい測定を示す信号が聞こえない場合があります。

⚠ 警告
身体に障害のある患者は、手持眼圧計を使用することが困難な場合があります。

⚠ 警告
この装置の変更は許可されていません。

⚠ 重要
本眼圧計を使用する前に、本取扱説明書をよくお読みください。いつでも参照できるよう、この説明書を保管してください。眼圧計の使用と保守に関する製品情報が記載されています。

⚠ 重要
米国連邦法では、本装置の販売を制限しており、医師または適切な資格を持つ施術者への販売またはそれらの指示に基づく販売のみ許可されます。

- 開梱後、外見上の破損または欠損、特に本体に損傷がないかご確認ください。本眼圧計に関して不審な点がございましたら、販売店にお問い合わせください。
- 眼圧計は眼圧の測定にのみ使用してください。それ以外の使用は不適切です。不適切な使用による損傷やそれに伴う結果について、製造元は一切の責任を負わないものとします。
- 電池収納部以外、またはプローブ ベースを交換するとき以外は、眼圧計本体を絶対に開けないでください。
- 水に濡れる場所や湿度の高い環境では眼圧計を絶対に使用しないでください。また、眼圧計を濡らさないでください。
- プローブ ベース、電池収納部カバー、ネジ、カラー（プローブベース収納部のカバー）、およびプローブはとても小さいため、お子様が飲み込む恐れがあります。眼圧計は、お子様の手の届かない場所に保管してください。
- 可燃性の麻酔薬など、引火性のある薬物の近くで本装置を使用しないでください。
- 額あて、アイ サポートまたは頬あてから細菌などの何らかの微生物に感染する可能性があります。これを避けるため、必ずアルコール溶液などの消毒薬を使用して、患者ごとに額あて、頬あておよびアイ サポートをクリーニングしてください。
- 本眼圧計は、EMC 要件（IEC 60601-1-2）に適合していますが、強力な電磁放射のある携帯電話などの機器の近く（1 m 未満）で使用した場合、干渉が発生する場合があります。眼圧計自体の電磁放射は、該当する基準で許容されるレベルを十分下回っていますが、高感度センサーなど周囲にあるその他の機器で干渉の原因となる場合があります。
- 本機器を長期間使用しない場合は、電池を取り外してください。液漏れが発生する場合があります。電池を取り外すと、機器は通常の測定モードに戻ります。
- 細菌やウイルスあるいは眼の感染症の二次汚染を避けるため、測定する患者ごとに新しいプローブを使用してください。
- 未開封のパッケージから取り出したプローブのみを使用してください。いったん開封してしまうと、プローブの無菌性が保証されません。
- 眼圧計のプローブは単回使用品となっています。プローブを再滅菌または再使用した場合、正しい測定値が得られない可能性やプローブが破損する恐れがあります。
- 単回使用のプローブは、使い捨て注射針用の廃棄物容器に捨てるなど、必ず適切に廃棄してください。一度使用したプローブは、微生物が付着している可能性があります。
- 測定中は、USB ケーブルを接続しないでください。接続していると、測定を実行できません。
- USB ケーブルを接続したまま、電池またはプローブ ベースを交換しないでください。
- 電池、パッケージ材料、およびプローブ ベースは、各地域の規則に従って廃棄してください。未開封のプローブ（図 5 を参照）および附属品のみを使用してください。

使用の適応

Icare ONE 眼圧計（TA02）は、人の眼の眼圧（IOP）監視専用です。本眼圧計は、医療従事者および医療従事者による監督および制御の下にある患者のみが使用します。患者による使用は、処方箋がある場合のみです。

使用禁忌:

TA02 眼圧計は次の場合には、禁忌です。
角膜瘢痕、小眼球症、牛眼症、眼震症、円錐角膜、角膜中心部の厚み異常、および局所麻酔

概要

Icare ONE 眼圧計は、人の眼の眼圧（IOP）監視専用です。本眼圧計は、医療従事者および医療従事者による監督および制御の下にある患者のみが使用します。

特許取得済みの誘導型反発法をベースとしており、麻酔を使用せず、眼圧（IOP）を正確かつ迅速に測定できます。

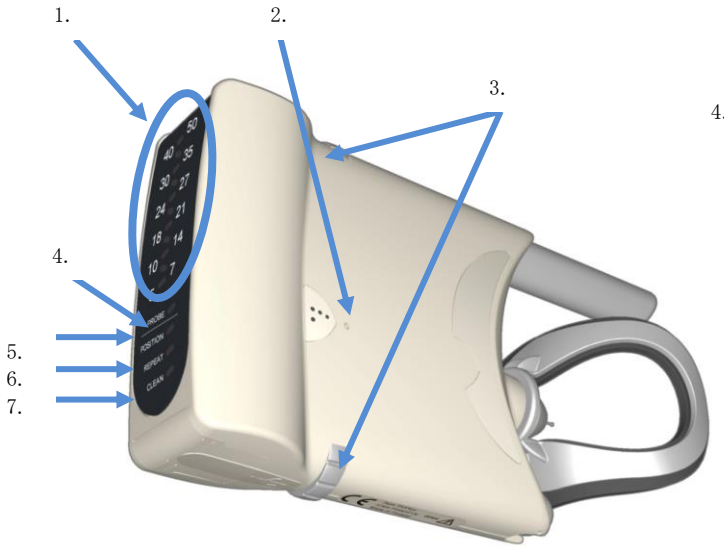
Icare One では、微生物汚染の危険性を最小限に抑えるために、滅菌済みディスポーザブル プローブを使用しています。
眼圧は、脈拍、呼吸、眼の動き、および体位の影響で変化します。手持ち式の装置を使用して瞬時に数回の測定を行い、測定中に生じる眼圧の小さな変化を平均化します。自動モードでは、正確な測定値を得るにはあらかじめ設定された 6 回の測定を行う必要があります。

Icare ONE 眼圧計は緑内障の患者が使用して、眼圧の監視を行うことができます。測定結果は眼圧計の内部メモリに保存され、Icare LINK ソフトウェアを使用して、USB ケーブル経由で PC に転送できます。自分で測定した測定結果の解釈については、医師に相談してください。

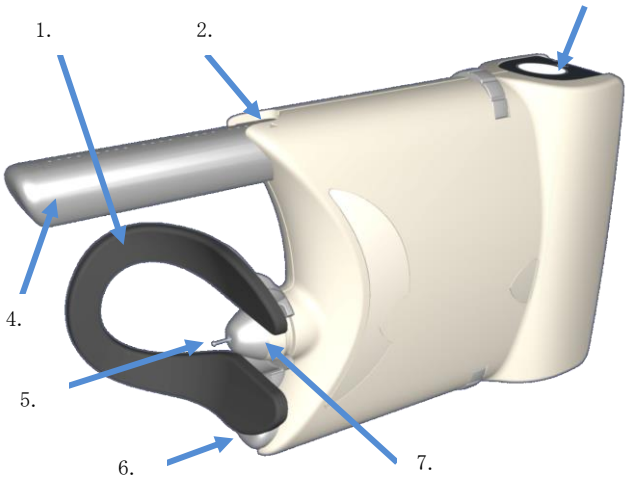
製品構成

本製品には以下の内容物が含まれています。

- Icare ONE 眼圧計
- 滅菌済み単回使用プローブ x 10 個
- アイサポート（小および大） x 2 個
- 電池 x 2 個
- USB ケーブル
- 取扱説明書
- Icare LINK ソフトウェアのダウンロード方法の説明書
- 保証カード
- キャリーオン ケース
- モード スイッチ キー



1. IOP インジケータ LED
2. モード スイッチ
3. 額あて/頬あて調節ダイヤル
4. プローブ エラー LED
5. 位置エラー LED
6. リピート エラー LED
7. クリーニング エラー LED

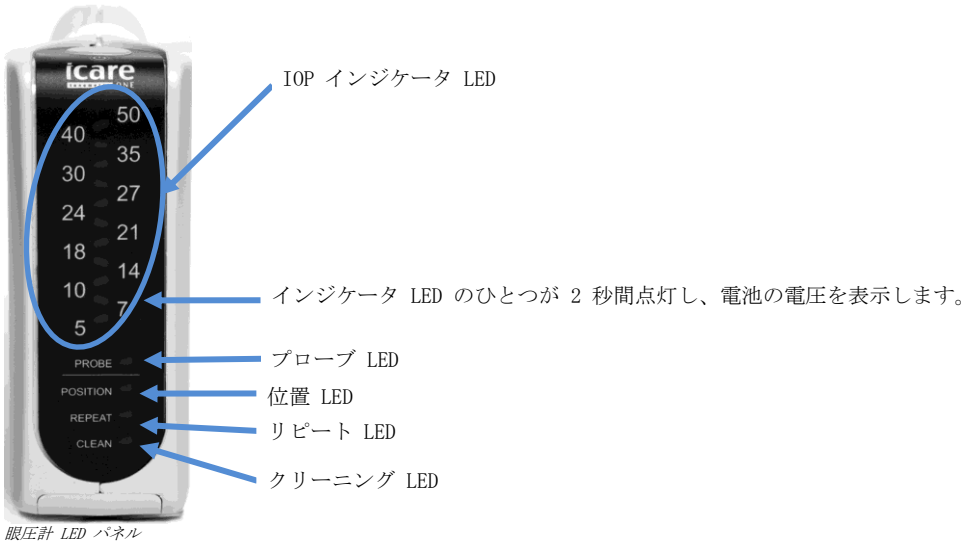


1. アイ サポート
2. サポート位置インジケータ
3. 測定ボタン
4. 額あて
5. プローブ
6. 頬あて
7. プローブ ベース

電源の投入

測定ボタンを押して眼圧計をオンにします。すべての LED が短時間表示されます。
下部の IOP インジケータ LED のいずれかが 2 秒間点灯されたままになり、他の LED はオフになります。LED は電池の電圧を示します。

- 緑 = OK
- 黄 = 低下
- 赤 = 低、電池を交換



眼圧計 LED パネル

短時間の停止の後、プローブ LED が点滅し、測定の前に単回使用プローブを眼圧計に装填するようにユーザーに通知します。

表示精度: 表示は次の 11 の範囲に分類されています。

- 5 ～ 7 mmHg
- 7 ～ 10 mmHg
- 10 ～ 14 mmHg
- 14 ～ 18 mmHg
- 18 ～ 21 mmHg
- 21 ～ 24 mmHg
- 24 ～ 27 mmHg
- 27 ～ 30 mmHg
- 30 ～ 35 mmHg
- 35 ～ 40 mmHg
- 40 ～ 50 mmHg

測定前の眼圧計の設定

測定を実施する前に、医療従事者が眼圧計の測定位置を正しく調整する必要があります。設定には以下の項目があります。

- 測定モードの選択
- 測定位置の調整
- 各測定前のプローブの装填

測定モードの選択

装置は次の 2 つのモードで動作します。

通常

- 通常モードは、1 度に 1 回ずつ、個別に測定する場合に使用します。最終的な眼圧測定結果を得るには、測定ボタンを測定ごとに 1 回押して、6 回の測定を開始する必要があります。通常モードは通常、患者本人以外の人が測定を行う場合に使用します。

自動

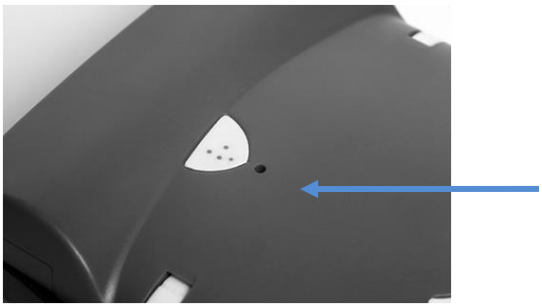
- 自動モードは自分で眼圧測定を行う場合に特に便利です。自動モードでは、測定ボタンを 1 回押すだけで、測定機能が開始され、眼圧計により自動的に 6 回の測定が行われ、最終的な眼圧測定結果が得られます。

⚠ 注意

装置は、角膜に対してプローブの移動を連続して 6 回の測定が行われるように設計されています。その後、装置によって最終的な眼圧測定結果の範囲が算出されます。最終的な眼圧測定結果の範囲は装置の LED パネルに表示されます。

測定モードを変更するには:

1. 眼圧計をオンにします。
2. 真っ直ぐなピンを、眼圧計の横側にあるモード スイッチ穴に挿入します。



測定モード スイッチ

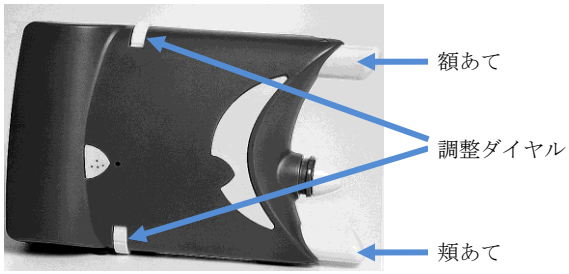
3. 眼圧計のモード スイッチ穴の下部にある、眼圧計附属のモード スイッチ キーを使用して、モード変更信号が聞こえるまでスイッチを押します。モードを変更するには、スイッチを約 3 秒間押す必要があります。

聞こえる音は、次のように測定モードを示します。

- 1 回のビープ音: 通常モード
- 3 回のビープ音: 自動モード

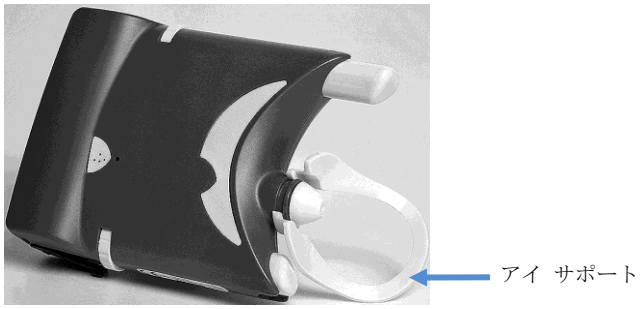
測定位置の調整

眼圧計には、図のように、2 つの調整可能なサポートがあります。1 つは額あてで、もう 1 つは頬あてです。 これらのサポートを調整することで、正確な測定距離と配置が得られます。調整ダイヤルを回してサポートを調整し、プローブの先端から角膜表面までの距離を 4 ～ 8 mm (5/32 ～ 5/16 インチ) にして、プローブを水平にします。



調整ダイヤル付きの眼圧計の額あてと頬あて

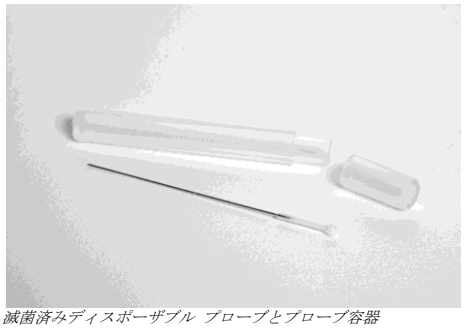
オプションのアイ サポートを使用すると、位置決めが簡単に行え、測定中の安定性を向上させることができます。アイ サポートを使用する場合、頬あては使用しないため、最小の設定に調整する必要があります。アイ サポートは片側から回すことで、両目に使用できます。



額あてとアイ サポート（頬あては最小の位置）

プローブの装填

Icare ONE 眼圧計 TA02 は、図のように滅菌済みディスポーザブル プローブを使用します。各プローブは単回使用品です。プローブはブリスタに個別にパッケージされています。



滅菌済みディスポーザブル プローブとプローブ容器

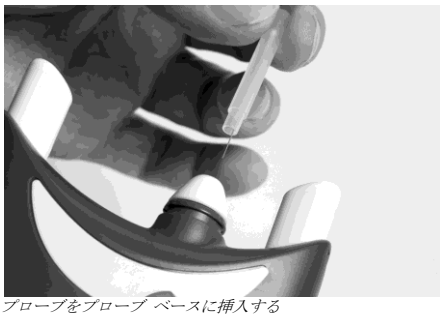
以下の手順で、プローブを装填します。

1. 図のように、プローブ容器のふたを開きます。

⚠ 重要
汚染を防ぐため、プローブ先端に指で触れないでください。

プローブ容器を開く

2. 図のように、プローブ容器を逆さにしてプローブをプローブ ベースに挿入します。



プローブをプローブ ベースに挿入する

3. プローブが挿入されたら、プローブが落ちることを防ぐため、眼圧計を下向きにしないように気を付けてください。

4. 測定ボタンを 1 回押して、挿入したプローブをアクティブにします。アクティブ化中に装置がプローブを磁化します（プローブがすばやく前後に移動します）。

プローブがアクティブになったら、プローブ LED が点灯したままになります。これで、眼圧計は測定可能な状態になりました。

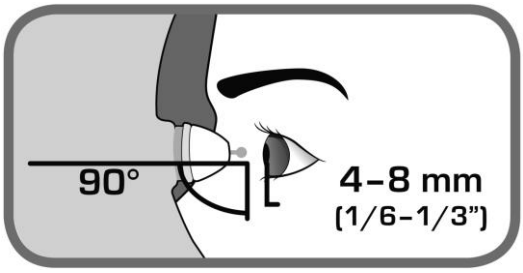
眼圧の測定

- 1 つの測定シーケンスで 6 回測定を行います。6 回の測定がすべて終了すると、測定値が LED ディスプレイに表示されます。測定値は、実行された 6 回の暫定的な測定のうち、成功した 4 回の暫定的な測定値の平均です。最高値と最低値は最終的に表示される値からは除外されます。平均のばらつきが大きい場合には、（SD）エラー コードの「リピート（REPEAT）」が LED ディスプレイに表示されます。エラー メッセージおよびインジケータを参照してください。

- 自動モードでは、6 回の測定が連続して自動的に行われます。通常モードでは、6 回の測定がすべて行われるまで、ユーザーが各測定を行う必要があります。

  以下の手順で、眼圧を測定します。

1. 眼圧計が正しく設定され、測定位置が医師または看護師によって調整されていることを確認します。
2. 目を大きく開いたまま力を抜いて正面の一点を見るよう患者に伝えます。



患者と眼圧計の正しい位置関係

3. 図のように、壁掛けの鏡の前で眼圧計を眼の近くに配置します（測定手順）。眼圧計をさらに近づけ、額あてと頬あてを肌に接触させます。プローブの先端から角膜表面までの距離は 4 ～ 8 mm（5/32 ～ 5/16 インチ）である必要があります。

4. 眼圧計を揺らさないよう気を付けながら、測定ボタンを軽く押して、測定を行います。プローブの先端が角膜中央に触れる必要があります。測定の方法は、選択したモードにより異なります。

- 「**自動**」モードでは、測定ボタンを **1 回** 押し、測定を行います。長めのビープ音は 1 回の測定シーケンス（6 回測定）の終了を示します。自動モードでは、個別の測定値は表示されません。
- 「**通常**」モードでは、測定ボタンを押して、1 度に 1 回ずつ測定を行います。測定ごとに短めのビープ音が鳴ります。6 回の測定シーケンスが完了すると、長めのビープ音が鳴ります。

測定結果の範囲の表示の他に、正確な測定値が内部メモリに保存されます。

Icare ONE は継続して測定位置を制御します。眼からの距離が遠すぎるまたは近すぎる場合、または、測定角度の傾きが大きすぎる場合、眼圧計のビープ音が 2 回鳴り、エラー（位置）を示す赤い LED が表示されます。測定ボタンを再度押し、エラー メッセージを消去し、10 ページに記載されたインジケータに応じて、是正措置を行います。

通常モードでは、成功した各測定の後に、値が短時間表示されます。連続した 6 回の測定が完了し、測定結果が有効な場合、最終的な値の範囲が表示されます。各測定値間のばらつきが大きすぎる場合、リピート エラー LED が表示され、測定を再度実行する必要があ

ります。装置により測定の質が内部メモリに保存されますが、これにアクセスするには Icare® LINK ソフトウェアを使用して PC にダウンロードする必要があります。

以下の場合、測定をやり直す必要があります。

- リピート エラー LED が表示される場合。たとえば、プローブがまぶたに触れた場合。
- 異常な値が得られた場合。たとえば、22 mmHg を超える場合や 8 mmHg を下回る場合。

眼圧計の内部メモリには、測定の日時、測定結果、および測定の質レベルが保存されます。この情報は、Icare® LINK ソフトウェアを使用して、USB ケーブル経由で PC にアップロードできます。データを転送できる医療従事者に眼圧計を持っていきます。

⚠ 注意
Icare LINK ソフトウェアを使用する場合、最初に取得された測定値は右目のもので、2 番目に取得された測定値は左目のものであるとデフォルトで想定されます。

測定手順

測定位置

患者への使用説明

- 測定を行う場合には:

⚠ 注意
自分で眼圧測定を行う前に、患者は医療従事者に設定を行ってもらってください。医師または看護師は額あてと頬あてを使用して、プローブの先端と角膜中央の距離を 4 ～ 8 mm (5/32 ～ 5/16 インチ) に調整しておきます。

⚠ 注意
眼圧計は垂直位置に持ちます。信頼できる結果を得るために、傾きの角度は ± 22° に制限しておきます。

- 医師または看護師は測定位置を調整しておきます。
- 医師または看護師は患者に眼圧計の使用方法を実演して見せておきます。

1. 装置をオンにし、プローブを装填します。
2. 壁掛けの鏡の前に立ちます。
3. 白の測定ボタンが上向きになるように眼圧計を手に持ちます。
4. 鏡の中でプローブの白い先端が黒い瞳の前に見えるように、眼圧計を横にして眼の方向に移動します。
5. 眼圧計をさらに近づけ、額あてと頬あてを肌に接触させます。
6. プローブの白い先端が角膜中央 (瞳) の前に見えることを確認します。
7. 眼圧計を横位置から回し、プローブを装填した眼圧計が角膜中央 (瞳) をまっすぐに示すようにします。
8. 目を大きく開いて、測定中はまばたきをしないようにします。
9. 測定ボタンを 1 回押します。プローブが目に 6 回触れ、 長めのビープ音が 1 回鳴った後、最終的な結果が得られます。自動モードでは、6 回の暫定的な測定が連続して行われます。

⚠ 重要
測定は常に、最初に右目を行い、次に左目を行います。右目の測定シーケンスを完了してから、左目に変更します。

以下の場合、測定をやり直す必要があります。
- リピート エラー LED が表示される場合。たとえば、プローブがまぶたに触れた場合。
- 異常な値が得られた場合。たとえば、22 mmHg を超える場合や 8 mmHg を下回る場合。

エラー メッセージおよびインジケータ

Icare 眼圧計 ONE のディスプレイ パネルには、次の LED が表示されます。

LED	状態	説明および措置
プローブ	青の点滅 青の点灯	プローブを装填する 使用可能
位置	赤の点灯	距離と位置を確認する
リピート	赤の点灯	標準偏差が高すぎる - 測定シーケンス全体を繰り返す
クリーニング	赤の点灯	プローブ ベースをクリーニングまたは交換する

ICARE ONE 眼圧計を使用する上で医療従事者と患者で違う点

医療従事者への説明

1. 眼圧計が医師または看護師によって正しく設定されていることを確認します。
2. 目を大きく開いたまま力を抜いて正面の一点を見るよう患者に伝えます。
3. 眼圧計を眼に近づけます。眼圧計をさらに近づけ、額あてと頬あてを肌に接触させます。プローブの白い先端が角膜中央（瞳）の前に見えることを確認します。プローブの先端から角膜表面までの距離は 4 ～ 8 mm（5/32 ～ 5/16 インチ）である必要があります。
4. 眼圧計を揺らさないよう気を付けながら、測定ボタンを軽く押して、測定を行います。プローブの先端が角膜中央（瞳）に触れる必要があります。測定の方法は、選択したモードにより異なります。
5. 通常モードでは、成功した各測定の後に、値が短時間表示されます。連続した 6 回の測定が完了し、測定が有効な場合、眼圧測定結果の最終的な値が表示されます。各測定値間のばらつきが大きすぎる場合、リピート エラー LED が表示され、測定を再度実行する必要があります。装置により測定の質が内部メモリに保存されますが、これにアクセスするには Icare LINK ソフトウェアを使用して PC にダウンロードする必要があります。
6. 以下の場合、測定をやり直す必要があります。

   リピート エラー LED が表示される場合。たとえば、プローブがまぶたに触れた場合。
   異常な値が得られた場合。たとえば、22 mmHg を超える場合や 8 mmHg を下回る場合。

7. 眼圧計の内部メモリには、測定の日時、測定結果、および測定の質レベルが保存されます。この情報は、Icare® LINK ソフトウェアを使用して、USB ケーブル経由で PC にアップロードできます。患者がソフトウェアを持っていない場合、データを転送できる医療従事者に眼圧計を持っていきます。

注意:Icare LINK ソフトウェアを使用する場合、最初に取得された測定値は右目のもので、2 番目に取得された測定値は左目のものであるとデフォルトで想定されます。なんらかの理由で測定を複数回行った場合、眼の詳細が不正確であり、修正の必要がある可能性があります（Icare LINK 取扱説明書を参照）。

患者への説明

1. 装置をオンにし、プローブを装填します。
2. 壁掛けの鏡の前に立ちます。
3. 白の測定ボタンが上向きになるように眼圧計を手に持ちます。
4. 鏡の中でプローブの白い先端が黒い瞳の前に見えるように、眼圧計を横にして眼の方向に移動します。
5. 眼圧計をさらに近づけ、額あてと頬あてを肌に接触させます。
6. プローブの白い先端が角膜中央の前に見えることを確認します。
7. 眼圧計を横位置から回し、プローブを装填した眼圧計が角膜中央（瞳）をまっすぐに示すようにします。
8. 目を大きく開いて、測定中はまばたきをしないようにします。
9. 測定ボタンを 1 回押します。プローブが目に 6 回触れ、長めのビープ音が 1 回鳴った後、最終的な結果が得られます。自動モードでは、6 回の暫定的な測定が連続して行われます。

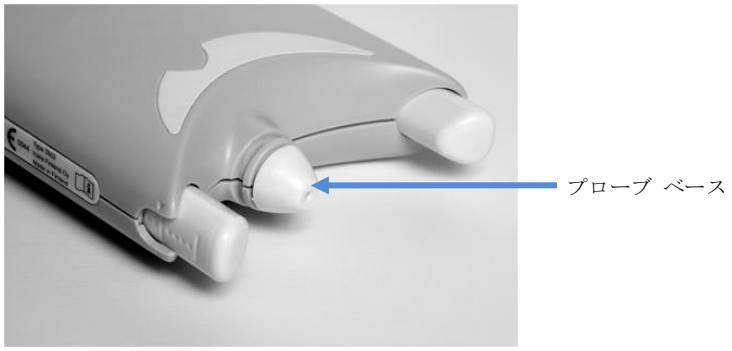
   以下の場合、測定をやり直す必要があります。

   リピート エラー LED が表示される場合。たとえば、プローブがまぶたに触れた場合。

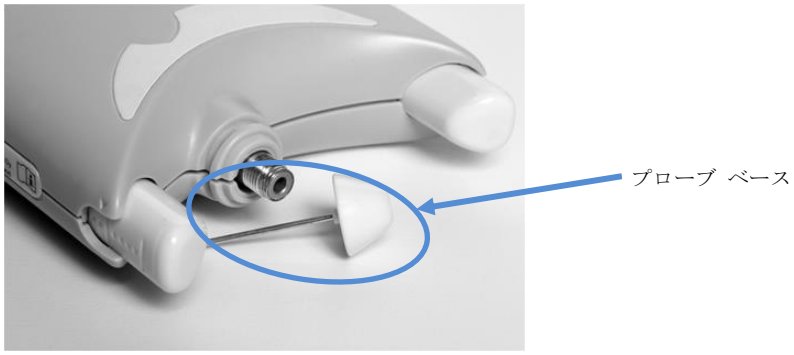
クリーニングと消毒

額あて、頬あておよびアイ サポートは 70% のアルコール溶液などの消毒薬を使用して拭き取り、患者ごとにクリーニングしてください。眼圧計を水やその他の溶液に浸けないでください。

眼圧計にクリーニングのエラー（クリーニング LED）が表示される場合、プローブ ベース（下の図を参照）が汚れているかほこりが付いている可能性があります。プローブ ベースをクリーニングするには、まず、プローブ ベースのネジを回して眼圧計から外します。イソプロピル アルコール（消毒用アルコール）をプローブ ベースの先端から慎重に注入します。空気をプローブ ベースに注入してプローブ ベースの水分を取り除き、部品を丁寧に乾かします。プローブ ベースをクリーニングできない場合は、新品のものと交換します。



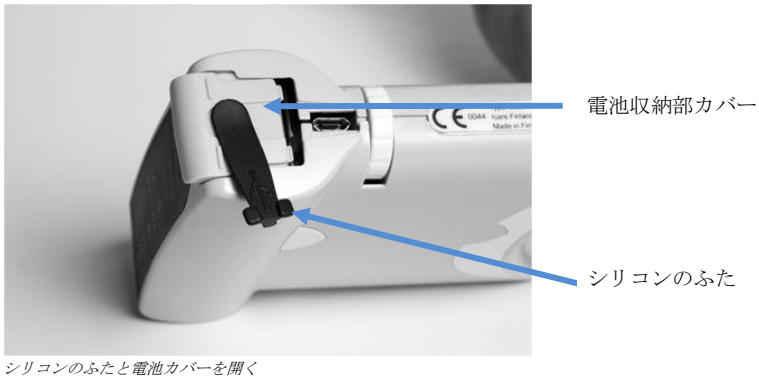
眼圧計のプローブ ベース



眼圧計のプローブ ベースのネジを外した状態

電池の交換

USB ポートを保護し、電池収納部カバーを所定の位置に固定しているシリコンのふたを持ち上げます。図のように、シリコンのふたを軽く押して、電池収納部カバーをスライドさせて電池収納部カバーを開きます。



シリコンのふたと電池カバーを開く

2 個の CR123A リチウム電池を正しい順序で挿入します。図のように、（+）端を上向きにします。カバーをしっかりと閉じ、シリコンのふたを所定の位置で押して、USB ポートを塞ぎます。

⚠ 注意
Energizer Lithium Photo 123 3V CR123A など、PTC 保護が組み込まれている電池を必ず使用します。

新品の電池の挿入

保守手順

装置に電池の電圧が低いと示される場合、電池を交換します。

プローブが滑らかに動かない（クリーニング LED が点灯している）場合、プローブ ベースをクリーニングまたは交換してください。

⚠ 注意
その他の保守手順をユーザーが行うことはできません。その他のすべての保守および修理は、製造元または認定サービス センターで行う必要があります。

予備部品

- 単回使用プローブ（購入時には眼圧計と一緒に 10 個同梱）
- プローブ ベース キット
- アイ サポート
- モード スイッチ キー
- USB ケーブル
- 電池
- キャリーオン ケース

これらは、Icare 製品の最寄りの代理店から購入できます。

技術情報および性能データ

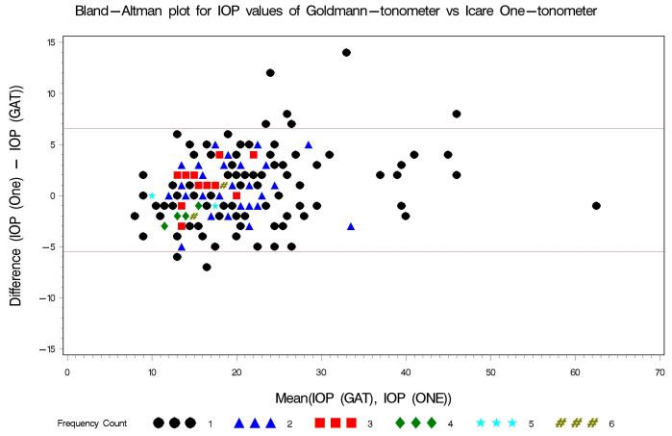
- 型式 TA02
- 本装置は CE 規則に適合
- 寸法: 約 11 cm x 8 cm x 3 cm
- 重量: 約 150 g
- 電源:CR123 電池 x 2 個 (Energizer Lithium Photo 123 3V CR123A など、PTC 保護が組み込まれている電池を必ず使用します)
- 測定範囲:5 ～ 50 mmHg
- 表示範囲:5 ～ 50 mmHg
- 精度（マノメトリーと比較して 95 % の許容差:± 1.8 mmHg
- 再現性（変動係数: < 9 % @ IOP ≤20 mmHg
  < 3 % @ IOP >20 mmHg
- 表示精度: 表示は次の 11 の範囲に分類されています。
  5 ～ 7 mmHg
  7 ～ 10 mmHg
  10 ～ 14 mmHg
  14 ～ 18 mmHg
  18 ～ 21 mmHg
  21 ～ 24 mmHg
  24 ～ 27 mmHg
  27 ～ 30 mmHg
  30 ～ 35 mmHg
  35 ～ 40 mmHg
  40 ～ 50 mmHg

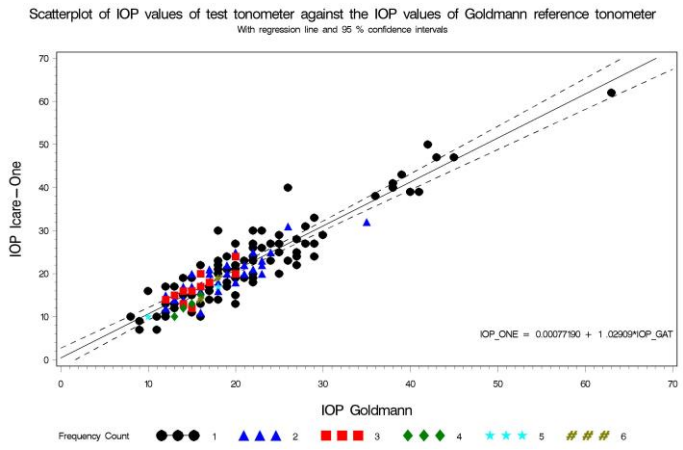
- 表示単位: mmHg
- シリアル番号は、電池収納部カバー内に記載されています。
- 眼圧計から患者への電気的な接続なし
- 本装置に BF 型感電防止機能を搭載

- 動作環境
  温度:+10 ℃ ～ +35 ℃
  相対湿度:30 % ～ 90 %
  気圧:800 hPa ～ 1060 hPa
- 保管環境
  温度:-10 ℃ ～ +55 ℃
  相対湿度:10 % ～ 95 %
  気圧:700 hPa ～ 1060 hPa
- 輸送環境
  温度:-40 ° C ～ +70 ° C
  相対湿度:10 % ～ 95 %
  気圧:500 hPa ～ 1060 hPa

臨床成績データ

成績データは、眼圧計に関する ANSI Z80 および ISO 8612 に基づく臨床研究から得られたものです。
対差（ゴールドマン眼圧計と Icare ONE 眼圧計）の平均値は 0.6（16 mmHg 以下の場合は 0.1、16 mmHg 超かつ 23 mmHg 未満の場合は 1.0、23 mmHg 以上の場合は 0.8）で、標準偏差は 3.1 でした。





記号

- 重要

- 湿気厳禁

- 詳細については操作説明書をご覧ください。

- 製造日

- BF 型機器

- ロット番号

- 単回使用の使い捨て

- 放射線照射滅菌済み

- シリアル番号

- 待機状態

- 使用期限: <日付>

- この製品は家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。
- 回収再利用を行う適切な処理場に送付してください。
- EU WEEE（電気電子機器の廃棄に関する欧州議会および理事会指令）